

氏 名	ペレズ バエス モニカ PEREZ BAEZ MONICA
学位(専攻分野)	博 士 (学 術)
学 位 記 番 号	博 甲 第 640 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 24 年 3 月 26 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研 究 科 ・ 専 攻	工芸科学研究科 造形科学専攻
学 位 論 文 題 目	ADAPTIVE REUSE AND SUSTAINABLE COMMUNITY ACTIVATION TO INCREASE URBAN GREEN AREAS (都市緑地の増加に寄与する都市空間再利用と持続的なコミュニティ活性化に関する研究)
審 査 委 員	(主査)教授 鈴木克彦 教授 森田孝夫 教授 石田潤一郎

論文内容の要旨

都市内の自然生態系は近年の急速な開発の影響により、多くの緑地や公共空間が減少したり、破壊されたりして、新しい緑地空間を創出する機会が制約されたり喪失している。しかし、人々が生活しやすく、環境と共存しやすく、より健康的で楽しい都市空間を創出するために、既存都市空間に自然を再導入する必要性がより高まっている。一方で、都市コミュニティにより緑地環境を改善するための活動が展開されており、都市環境の状態と美観を改良する取り組みも展開されている。本論文の目的は、都市空間の再利用・再活性化による緑化促進及びそれによって誘因されるコミュニティの活性化の効果を分析することである。そのために、都市緑地を増加する手段として、都市内の未利用空間の活用手法を提示し、持続可能な都市・コミュニティの創出のための必須要素としてのコミュニティ参加の役割を明らかにしている。

＜第1章＞では、研究の目的と方法及び関連する既往の研究を述べている。

＜第2章＞では、サスティナブル都市開発の概念と理念について紹介し、持続可能なコミュニティ形成に向けた施策について論じている。

＜第3章＞から＜第5章＞までは、それぞれの章においてケーススタディを取り上げて、都市修復による緑化の利点や利益を具体的に明らかにしている。各章で取り上げられた 3 つのケーススタディは、都市公園になったニューヨークの未利用高架鉄道（ハイラインパーク）、大改修により再生された大阪の古い住宅団地（UR 向ヶ丘第 1 住宅）、そして、京都市内での緑化された歴史的な路地（中京区）である。これらのケースの空間構成の特徴を解析した上で、その空間の利用者を対象とした意識調査を実施し、都市緑地の増加による都市空間及びコミュニティの活性化への役割を例証している。その分析手法として、持続型社会に重要な 4 つの持続可能性（社会、経済、環境、資源）を評価対象とするサスティナブル環境診断手法(SEAM)を開発して持続可能性のレベルを評価し、都市空間再利用の効果を分析している。この手法により導かれた研究成果はサスティナブル・コミュニティの創出という視点からの都市空間の再構築手法に示唆を与えるものであり、本論文の最も独創的で有意義性が評価される点である。

＜第6章＞は結論として得られた結果から、都市内残余空間の緑化再利用により導かれる都市コミュニティの活性化手法と都市緑化の展望および将来の適用可能性を示している。

論文審査の結果の要旨

本論文の6つの章は、国際的研究集会や学術論文誌に審査を経て掲載、ないしは掲載が決定している5編の論文を中心に構成されている。

近年の急速な都市開発の影響による自然生態系の減少は、ヒートアイランド現象の深刻化や治安の悪化など様々な環境的・社会的問題を増加させている。本論文は、既存都市空間の未利用空間に自然緑地を再導入することで、都市空間を再活性化すること及びそれによって誘因されるコミュニティの活性化の効果を提示している。その根拠を導き出すために2つの先進的なプロジェクト及び京都市内の伝統的街区を対象として空間構成の解析と利用者意識の調査を実施し、未利用空間の活用による持続可能な都市コミュニティの創出効果について検証している。また、利用者評価の検証手法として独自のツールを開発し、4つの持続可能性（社会、経済、環境、資源）の側面から各プロジェクトの持続可能性の達成レベルを評価することで、未利用都市空間の再利用の効果を分析している。その結果、未利用空間の緑化効果の多面的な側面が明らかになり、独創的で有意義な研究成果が導かれている。

都市空間の緑化は広場・公園や道路空間のみに着目されがちであるが、都市内にある無数の未利用空間を活用しての都市空間の再活性化と持続的コミュニティの醸成という着眼点は独創的であり、きわめて社会的意義が高い。本論文で開発された研究手法は汎用的で様々な事例に適用が可能であり、今後さらなる実証研究を積み重ねて、既存都市空間の活性化の可能性を追求していくことが期待される。

以上のように、本論文は持続型社会を視野に入れた都市デザイン手法の新たな枠組みを提示していることから、独創的で大きな学術的価値を有するものと認められる。

本論文の内容は、以下の学術論文に報告されている。

- 1) Monica Perez Baez and Katsuhiko Suzuki : Green Roofs and Green Walls as a Tool to Revitalize Urban and Building Residual Spaces, Papers of the 2010 World Green Roof Conference, Tongji University, Shanghai, China, pp. 76-89 (2010)
- 2) Monica Perez Baez, Katsuhiko Suzuki and Toda Corporation Group : Housing Stock Renaissance Plan, The Mukogaoka Housing Complex Case Study, Papers of the 11th International DOCOMOMO Conference, Universidad Nacional Autonoma de Mexico, Mexico, pp. 1-10(2010)
- 3) Monica Perez Baez and Katsuhiko Suzuki : Building Technologies for Housing Stock Renovation –The Renaissance Plan and the Mukogaoka Housing Complex, Abstracts & Papers of the 11th Congress of Asian Planning Schools Association (APSA), Tokyo University, Tokyo, Japan, pp. 542-553(2011)
- 4) Mónica Pérez Báez : Revitalizacion de Callejones Como Herramienta Para Incrementar las Áreas Verdes en Las Ciudades, ArquiTectónica, Universidad Iberoamericana, Mexico City, Mexico, pp. 1-10 (2011)
- 5) Monica Perez Baez and Katsuhiko Suzuki : Alley Revitalization to Increase Green Areas in the Cities, Journal of Habitat Engineering and Design, International Society of Habitat Engineering and Design (ISHED), Japan, pp. 1-12 (2012) 掲載予定